

Information from The Ehime Bank

ひめぎん情報

ひめぎん

2026

新春号

No.306

Check!

トピック

新年の抱負

Contents

ひめぎん情報

Information from The Ehime Bank

2026 新春号 No.306

- 1 新春ごあいさつ
西川 義教／愛媛銀行 頭取
- 2 新年の抱負
株式会社イナミコーポレーション
2022年新規事業創出プログラム参加
代表取締役 稲見 政隆 氏
- 5 地域企業の未来を拓く新たな一歩
～ひめぎん新規事業創出プログラムの紹介～
藤原 卓哉／愛媛銀行 ソリューション営業部 主任
- 7 第105回愛媛県内企業動向調査結果（一部抜粋）
～2025年度上期実績、2025年度下期見通し、2026年度上期予想～
愛媛銀行 ひめぎん情報センター
- 10 これまで、そして次の四半世紀を考える
～ブルーエコノミーと愛媛県～
伊藤 聡／株式会社日本政策投資銀行 松山事務所長
- 16 「地域子育てのハブから未来を育む」
～母・副園長・研究者－三つの視点が生む挑戦～
学校法人エンゼル学園 幼保連携型認定こども園
エンゼル幼稚園 勝見 慶子副園長に聞く
- 22 シリーズ 四国霊場を歩く(11)
阿波路から土佐路へ
－山海の難所・番所を越え、女人禁制の寺へ－
胡 光／愛媛大学法文学部教授／四国遍路・世界の巡礼研究センター長
- 24 経済指標から振り返る2025年愛媛県経済



愛媛銀行
頭取 西川 義教



新春ごあいさつ

2026年の新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

2025年の国内経済を振り返りますと、米国の関税方針をめぐる不確実性が一時的に市場の変動性を高めたものの、8月の協議妥結により過度なリスク認識は緩和されました。さらに、10月に発足した高市内閣が掲げる「責任ある積極財政」への期待、企業収益の改善、設備投資の底堅さなどが複合的に作用し、株価は史上最高値を更新するなど、景気指標にはポジティブな動きが見られました。

金融政策では、日本銀行が2025年を通じて段階的な利上げを実施したことが注目されます。具体的には、1月に政策金利を0.5%へ、12月には0.75%に引き上げました。これらの措置は、物価安定と経済の持続的成長を両立させるための慎重かつ機動的な政策運営を示すものといえます。

地域経済に目を転じると、総じて持ち直しの傾向が続いています。特に造船・海運業や観光業といった地場産業は堅調に推移しており、企業活動の活発化と設備投資の増加が今後も期待されます。

2026年の展望としては、円安基調、物価高、金利上昇といったマクロ経済環境の変化が継続する可能性がある一方、DXやAI技術の急速な浸透により、企業の業務効率化やサービスの高度化が進

み、産業構造や生活様式に新たな変化が広がると予測されます。県内においても、人流回復や企業活動の活発化を背景に、都市機能の再整備や地域の魅力向上に向けたまちづくりが展開され、人口減少や人手不足への対応を視野に入れた持続可能な地域形成が進むことが期待されます。

こうした環境変化の中、当行は「第18次中期経営計画」の総仕上げの段階にあります。「強い地域経済をつくる」という揺るぎない信念のもと、地域金融力を最大限に発揮し、企業の成長促進やイノベーション創出に資する取組みを強化してまいります。そのために、多様な行員の能力を結集し、組織としての総合力を高めるとともに、事業者・地域社会との協働を通じて、豊かで持続可能な地域社会の形成に貢献する所存です。

本年の干支「丙午（ひのえうま）」は、「情熱と行動力をもって力強く物事を推進し、燃え盛るようなエネルギーで新たな道を切り開く」という意味を持ちます。この吉兆にあやかり、地域の皆様とともに力強く前進する1年としたいと考えております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

新年の抱負

株式会社

イナミコーポレーション

2022年新規事業創出プログラム参加

会社概要

会社名 株式会社イナミコーポレーション

創業 1964年6月1日

資本金 5,000万円

所在地 愛媛県西条市ひうち6-12



代表取締役 稲見 政隆 氏

事業紹介

当社は、今年で創業63年を迎える労働集約型の環境提供業です。祖父が木材（薪）（今でいう電気やガスなどのエネルギーに代わるもの）を配達していた当時、西条市の職員の方から「どこに頼んでもゴミを運んでももらえなくて困っている。稲見さんのところでゴミを運んでくれないか」と相談を受けたことが、当社の始まりでした。祖父は『うちでお役にたてるなら』とその申し出を受け入れますが、約10年後、祖父が急逝し、父が24歳で会社を継ぐことになります。ただ西条市からいただいていた環境事業の仕事は、2年に一度の入札制であり、もし万が一にも落札できなければ会社は倒産しかねない状況でした。そこで、一つの事業が困難に陥っても互いに支え合える事業部をつくっておこうと、ビルメンテナンス事業・ダストコントロール事業（マット・モップのレンタル）・引越運送事業を愛媛県全域で展開しました。

イナミ引越サービス

イナミ引越サービス

ロゴマークの変遷



仲間を想い、高め合う。“想像を超える働き”を生む環境部メンバー

その後2019年に父と代表交代をしました。

現在では岡山県、広島県、高松市に支店を開設し、中四国と関東・関西をつなぐ引越事業を展開しています。

新規事業創出プログラムに参加して

当社には四つの事業部がありますが、最後に誕生した引越事業部からすでに40年が経過しており、新たな商品・事業部を開発したいと考えているところでしたので、愛媛銀行の「新規事業創出プログラム」を知り、すぐに申し込みました。プログラムの内容はスタートアップ企業様との協業を通



新規事業PoiPoiの打合せ。和気あいあいとした風景

じて、自社の課題や自分たちのやりたいこと、チャレンジしてみたいことの深掘りでした。しかし、当初はなかなか参加者全員が、納得できる方向性が見えませんでした。そこで、もう一度原点に立ち返り、「わが社の存在意義とは何か」、「本当にやりたいことは何か」を改めて考え直した結果、一般家庭向け廃棄物の定期収集サービス『PoiPoi（ポイポイ）』の開発に至りました。現在では月52件、25万円の売上を計上するまでに成長しています。

また引越の見積りを従来の訪問見積りだけでなく、オンラインでも行えるシステムを開発し、すでに実運用を開始しています。



ゴミの日を、もっと自由に。『PoiPoi』で快適な暮らしを。

新年の抱負

今年、私が大切にしたいのは、理念の実現です。当社の経営理念のなかに『社員が家族に誇れる会社をつくる』という言葉がありますが、その実現に向けた取り組みを一つでも多く行いたいと思います。所得を増やすこともその一つですし、社員一人一人が自ら求めて考え、実践できるフィールドづくりもその一つであると考えています。社長の私や上長からの指示や命令で動く仕事よりも、自分自身が主体的に能動的に判断し実行に移した仕事のほうが、家族に誇れるのではないかと考えています。

そんな当社で働く一人一人が光り輝く会社づくりを、これからもみんなで行って参ります。

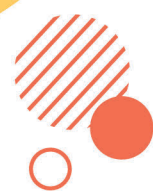


松山支店新社屋を落成



仲間とともに、誇れる会社へ





地域企業の未来を拓く 新たな一歩

～ひめぎん新規事業創出プログラムの紹介～

愛媛銀行 ソリューション営業部
主任 藤原 卓哉

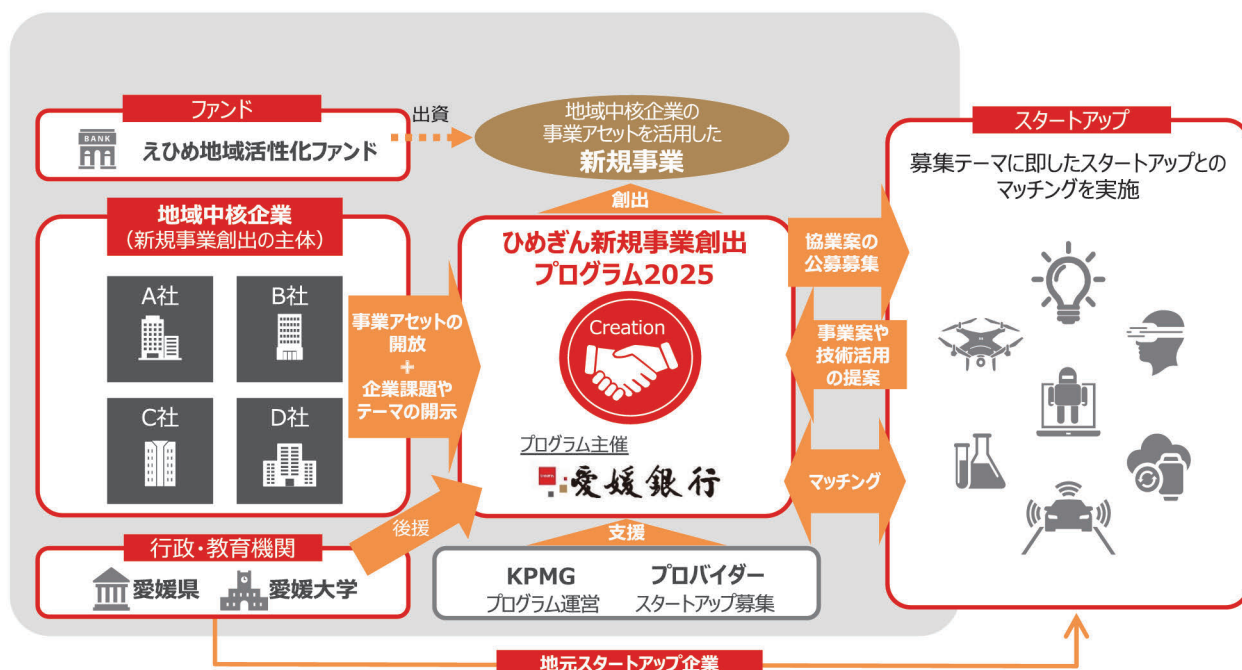
愛媛銀行では、地域企業の持続的成長とイノベーション創出を支援するため「ひめぎん新規事業創出プログラム」を展開しています。本プログラムは、地域の中小企業が新たな事業領域に挑戦するための伴走支援型プログラムであり、事業構想のブラッシュアップから実行計画の策定、資金調達や販路開拓までを一貫してサポートします。



「プログラム2025」テーマ共有会の様子

2020年度の開始以来、これまでに20社が参加し、現在は「プログラム2025（4社参加）」（令和8年1月末終了予定）が進行中です。参加企業は、専門家によるメンタリングやピッチイベント、スタートアップ企業との協業面談などを通じて、事業の磨き上げとネットワークの拡大を図っています。

《プログラムスキーム概要》



実際に新規事業の立ち上げや外部連携による効果といった成果も生まれ始めており、プログラム終了後も各社は培った知見を活かし、事業化に向けた取組みを積極的に進めています。さらに、自治体・大学・支援機関との連携も進展しており、地域課題の解決や新市場の開拓を目指した多様なプロジェクトが次々と生まれています。こうした取組みは、地域全体のイノベーション・エコシステムの形成にもつながっており、単なる企業支援にとどまらず、地域社会全体の未来づくりへと広がりを見せています。

今後も愛媛銀行は地域企業の挑戦を力強く後押しし、地域の未来を共に創るパートナーとして、より実効性の高い支援を展開してまいります。



「プログラム2025」テーマ共有会の様子

第105回愛媛県内企業動向調査結果(一部抜粋)

～2025年度上期実績、2025年度下期見通し、2026年度上期予想～

愛媛銀行 ひめぎん情報センター

【調査要領】

調査対象	愛媛県内に事業所を置く企業 969社 (回答企業数 327社 回答率33.7%)
調査方法	Webによるアンケート調査
調査時期	2025年10月
調査期間	実績：2025年度上期 (2025年4月～2025年9月) 見通し：2025年度下期 (2025年10月～2026年3月) 予想：2026年度上期 (2026年4月～2026年9月)

【回答状況】

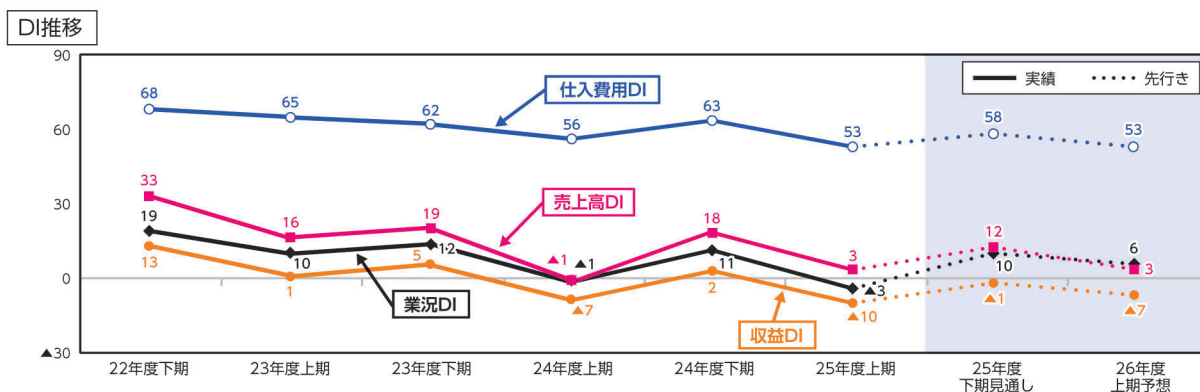
業種	回答企業数(社)	構成比(%)
全産業	327	100.0
製造業		
製造業	55	16.8
建設業	44	13.5
農林水産業	9	2.8
非製造業		
卸売業	40	12.2
小売業	36	11.0
不動産業	10	3.1
運輸・通信業	29	8.9
サービス業	104	31.8

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

要約

【業況】

- 2025年度上期業況DI(実績)は▲3と売上高DI・収益DIともに前期を下回った。
また、仕入費用DI(実績)は+53と依然高い水準にあるが前期より改善した。
- 業況DIの先行きについては、2025年度下期は+10(見通し)、2026年度上期は+6(予想)と好転する見込み。



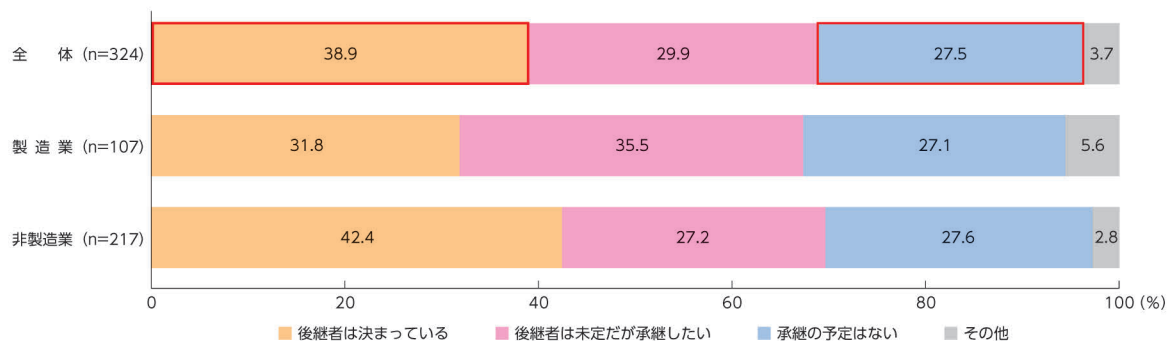
- 2025年度上期の設備投資実施企業は、全産業で42%。2025年度下期は46%(見通し)と増加するが、2026年度上期は35%(予想)と慎重な見方となっている。

【原材料価格等の上昇による価格転嫁】

- 価格転嫁を既に実施している企業(2025年度上期)は、製造業69.2%・非製造業46.0%。2026年度上期には製造業72.0%・非製造業49.0%に増加する予想。
- 価格転嫁率(2025年度上期)が50%以上の企業は43.7%で、製造業・非製造業ともに前回より増加している。

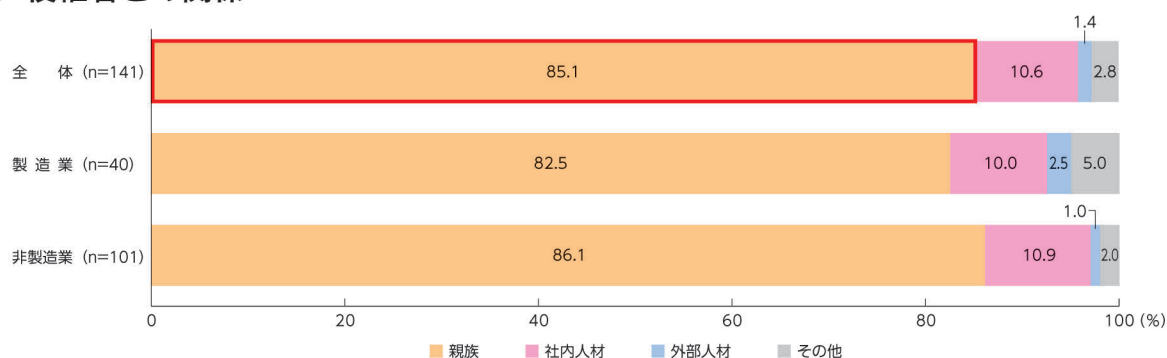
事業承継について

1. 後継者の有無



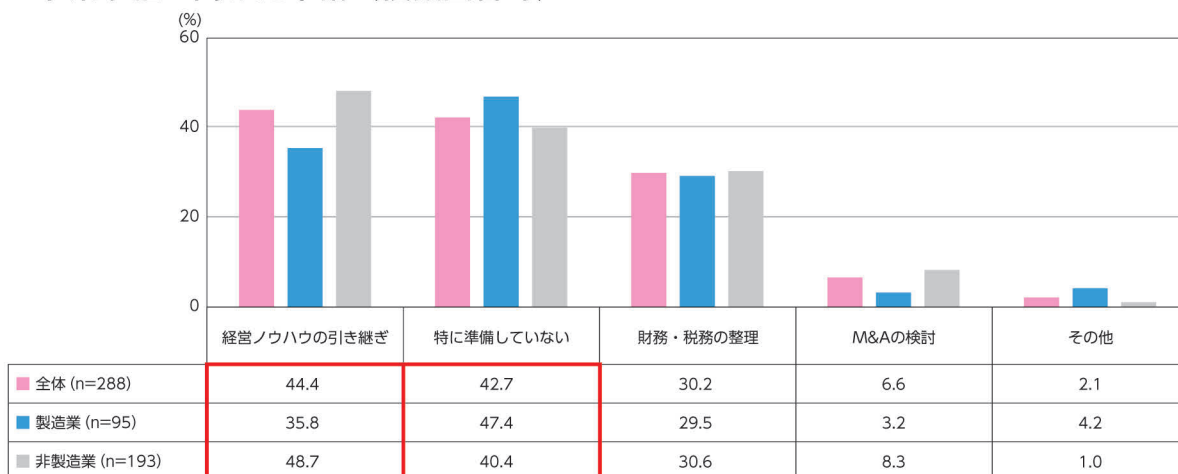
- 後継者の有無は、「後継者は決まっている」（全体38.9%、製造業31.8%、非製造業42.4%）、「後継者は未定だが承継したい」（全体29.9%、製造業35.5%、非製造業27.2%）、「承継の予定はない」（全体27.5%、製造業27.1%、非製造業27.6%）であった。全体の約4割が後継者を確保済だが、約3割は未定で承継を希望、また、承継予定なしも約3割となっている。

2. 後継者との関係



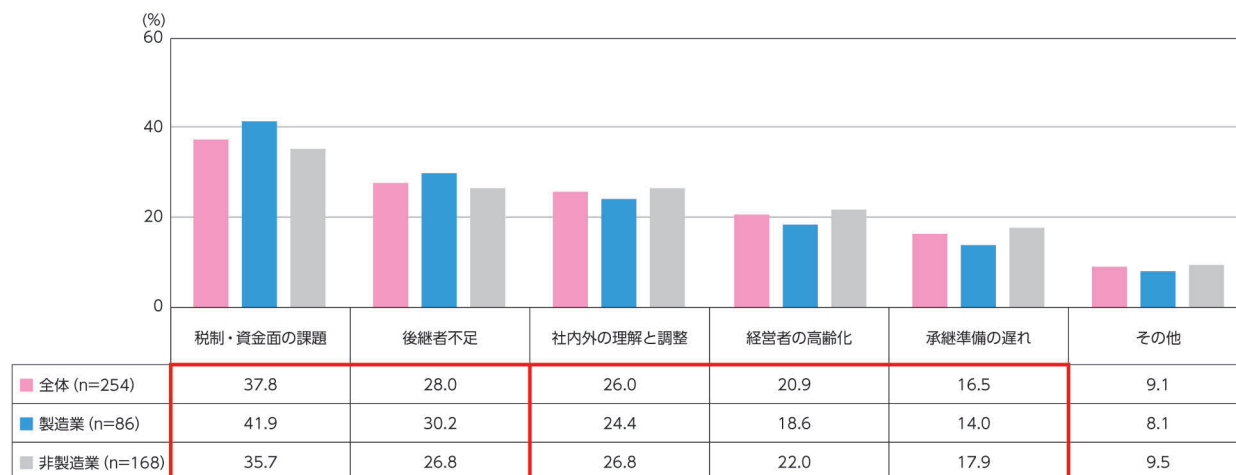
- 後継者との関係は、親族承継が圧倒的に主流（全体85.1%、製造業82.5%、非製造業86.1%）であり、日本の事業承継文化の特徴が出ている。

3. 事業承継に向けた準備（複数回答可）



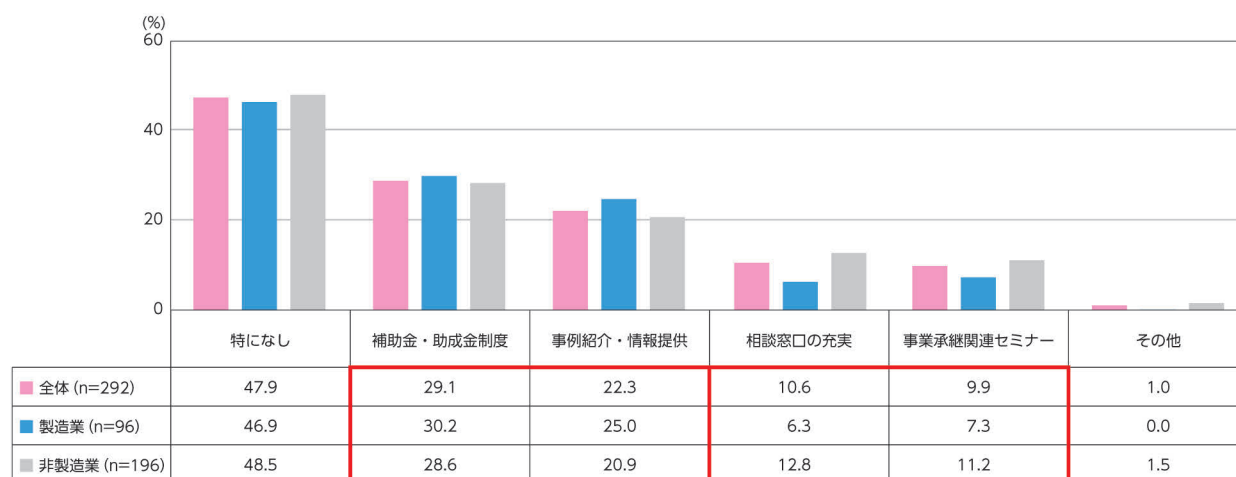
- 「事業承継へ向けた準備」では「経営ノウハウの引き継ぎ」（全体44.4％、製造業35.8％、非製造業48.7％）、「特に準備していない」（全体42.7％、製造業47.4％、非製造業40.4％）が高く、次いで「財務・税務の整理」（全体30.2％、製造業29.5％、非製造業30.6％）が高い。

4. 事業承継における課題（複数回答可）



- 「事業承継における課題」では、「税制・資金面の課題」（全体37.8％、製造業41.9％、非製造業35.7％）が最も高く、「後継者不足」（全体28.0％、製造業30.2％、非製造業26.8％）と「社内外の理解と調整」（全体26.0％、製造業24.4％、非製造業26.8％）が続く。「経営者の高齢化」（全体20.9％、製造業18.6％、非製造業22.0％）や「承継準備の遅れ」（全体16.5％、製造業14.0％、非製造業17.9％）も一定割合見受けられる。

5. 事業承継を進める際に期待される支援（複数回答可）



- 「特になし」（全体47.9％、製造業46.9％、非製造業48.5％）が最も高く、「補助金・助成金制度」（全体29.1％、製造業30.2％、非製造業28.6％）、「事例紹介・情報提供」（全体22.3％、製造業25.0％、非製造業20.9％）と続く。



株式会社日本政策投資銀行
松山事務所長 伊藤 聡



これまで、そして 次の四半世紀を考える ～ブルーエコノミーと愛媛県～

明けましておめでとうございます。新しい一年の始まりに際し、皆様のご繁栄と飛躍を衷心より祈念いたします。

「来年の事を言えば鬼が笑う」という諺があります。未来のことは予見できない、ということですが、2025年に生じた国内外の経済を取り巻く環境は、米国の相互関税に始まる通商政策の変化や世界各地で継続・勃発する紛争、日本国内における政権の不安定化など、まさに2024年時点では予見ができないものばかりだったのではないのでしょうか。刻々と変わる社会・経済環境に対応されてきた県内事業者の皆様のご苦労は大変なものだったかと思います。

IMFの最新の見通し（2025年10月）では、2025年の世界全体の実質経済成長率は3.2%であり、2024年の3.3%から微減、さらに2026年は3.1%と減速の予測を立てています。やはり米国の通商政策がもたらす世界経済全体の不確実性が要因です。

この中、日本の2025年は1.1%の成長と、2024年の0.1%から伸びていますが、2026年は0.6%と再度の減速が予想されています。この要因はやはり貿易面（外需）での不透明さです。プラスの要因としては、実質賃金の上昇による個人消費の下支え（内需）が挙げられています。しかし、足元では賃金（人件費）は上昇トレンドにあるものの、物価上昇に追い付いておらず、実質賃金の低下は続いています。そうなると2026年も楽観視はできません。さらに日本国内の政治状況も一筋縄ではいかないことは確実です。「不確実なことだけは確実」という、困った状況と言えるでしょう。

このように先の見通しが立てづらい、不確実性の高い時代には、足元や短期的な見通しも大事ですが、少し長い目で、来し方行く末を考えてみることも必要ではないでしょうか。今年は2026年です。つまり、早いもので2001年に始まった21世紀も四半世紀が経ち、次の四半世紀（2026～2050年）を迎えた新たな門出の年とも言えます。

そこで本稿では、21世紀の最初の四半世紀を振り返り、次にこれからの四半世紀について触れたうえで、今後の愛媛県の産業について「ブルーエコノミー」という概念から考えてみたいと思います。

2001～2025年：21世紀最初の四半世紀を振り返る

現在、私たちが前提としている物事や当たり前としている環境・認識のうち、21世紀の始まりには、全く考えもしていなかったものが多くあります。以下では「国際情勢」「経済動向」「デジタル化・技術革新」「環境・エネルギー」の4つの切り口から世界の変化を振り返ってみます。

①国際情勢：「米国一極集中」から「多極化」「複雑化」の世界へ

20世紀終盤に米ソの冷戦構造が終わりを迎え、世界は米国が主導する「アメリカ一極体制」「パックス・アメリカナ」の時代となりました。21世紀になった頃、世界は米国を核とした協調体制にあって大規模な戦争は起こりえないとする考えが広く共有されていたのです。しかし、2001年の米国における同時多発テロ以降、急速な経済成長を見せたBRICS諸国（特に中国・ロシア）が台頭、世界は「米国一極集中」から「多極化」の時代となりました。さらに2016年の英国のEU離脱、米中貿易摩擦の激化、ロシアのウクライナ侵攻、ガザ・イスラエル戦争など、国際情勢はこの四半世紀で複雑さを増すこととなりました。

②経済動向：「グローバル化」から「グローバル化の反動・修正」へ

思い起こせば、2001年の中国によるWTO加盟が大きな転換点となりました。WTO体制のもと安価な人件費を求めて世界中のメーカーが生産拠点を中国に置くようになったことが、製造業におけるグローバル・サプライチェーンの確立を促したからです。そして中国のほかインドやその他の発展途上国は低コスト生産を担い、欧米や日本では高付加価値な製品・サービス開発に力を入れる国際分業が進みました。しかし2008年のリーマン・ショックを契機とする金融危機によってグローバル化がはらむ危険性が認識されるようになると各国は金融規制の強化や国内産業の育成に力を入れるようになります。以前は「世界の工場」だった中国は製造業だけでなく、デジタル分野でも強い競争力を

持つようになり、世界第2位の経済大国になるまで成長を遂げました。そして、2020年代にはCOVID-19パンデミック、国際紛争を契機としたエネルギー危機、世界的なインフレなどの環境変化を受け、グローバル化を前提としつつも国内産業保護的、地域経済ブロック的な経済政策が採られるようになっていきます。

③デジタル化・技術革新：「第3次産業革命」から「第4次産業革命」へ

「第3次産業革命」は20世紀中～後半にかけてコンピューター・インターネット・ロボットなどの技術革新が及ぼす社会・産業の革命的变化を指します。携帯電話（ガラケー）はまさにその代表例の一つで、1990年代後半に急速に普及、21世紀になって普及率は9割を超えるようになりました。しかし当時はメールが送れる、写真が撮れるというのが新機能だった時代で、今のように動画を見たり、買い物をしたりというものとは程遠いものでした。このガラケー時代を一変させたのが、2008年に登場したスマートフォンです。2010年代になってすぐに普及率はほぼ100%となり、私たちの実生活とデジタル世界との壁は、ほとんど無くなったように感じられます。そして、このデジタル世界の分野でGAFAなどの企業が支配力を高めるとともに、消費や企業活動のあり方も一変させることとなりました。今やあらゆる業種・業界でデジタルを前提とした事業構築（IoTやDX）が競争領域となり、さらにAIの開発競争、社会実装が進むというように、「第4次産業革命」（デジタル技術による自動化や意思決定が社会・産業の多くを担う時代）が猛スピードで進んでいます。

④環境・エネルギー：「環境保護」から「環境の世紀」へ

18世紀の第2次産業革命以降、大気汚染や水質汚濁、そして公害などは社会にとって重要な環境的な問題でしたが、それらはあくまで問題が発生した地域内での解決が図られるものであり、環境保護もある特定地域の自然を保全するものという位置づけでした。しかし、21世紀になって注目されるようになった気候変動問題や生態系の危機、資源制約の高まりは人類の社会・経済の存続可能性にかかわるものとして、より深く認識されるようになります。特に2015年に国連総会で採択されたSDGs、「脱炭素」が国際的な共有目標となったパリ協定の締結は、21世紀を「環境の世紀」とする画期となりました。日本のみならず各国で2050年前後を目途としたカーボンニュートラルが掲げられ、再生可能エネルギーへの投資が進むなど、エネルギー安全保障と環境保全を両立させる経済政策が今世紀の経済成長のカギとなっています。

2026～2050年：次の四半世紀を考える

さて、ここまで21世紀最初の四半世紀を振り返ってきましたが、2026年をスタートとする次の25年をどのように考えればよいでしょうか。1年先のことも不確実なのに、より長い25年を見通すのは無理な話ですが、大きな流れ、大局観を持っておくことは大切なことなので、少しお付き合いください。

まず、愛媛県についてですが、国立社会保障人口問題研究所（2023年推計）では、2025年の約126.7万人から2050年には94.5万人まで総人口は減少すると見られています。つまり、愛媛県は人口100万人時代にどのように産業の活力を維持・向上させるか、社会を安定させられるかが、この四半世紀の大きなテーマとなります。

そして、これから愛媛県が直面する世界全体の動向に目を向けると、やはりどこか一つの国が強力なパワーを持って世界の政治・経済を引っ張っていくということは難しそうです。この中で日本は、そのポジションを探り続けることになるのではないのでしょうか。とはいえ経済的にヒト・モノ・カネがグローバルに動くことには変わりはないので、人口減少が進む日本では、より多くの国・地域をバランスよく顧客化することが重要でしょう。また、端緒についたばかりの「第4次産業革命」（デジタル化の深化）については、人手不足が深刻化する日本では、より実質的な対応が求められますし、今後、人口減少が始まる世界各地にそのノウハウを売り込むことも考えていくべきでしょう。さらに、「環境の世紀」においては、日本の技術力や課題解決力をビジネスとして展開していくことも重要となります。

では、このような25年間に於いて、愛媛県の産業は、日本にとって、そして世界にとってどのような価値を提供していくべきでしょうか。

ブルーエコノミーと愛媛県産業の強み

私たち人類が居住し経済活動を行うのは主に陸地（の一部）ですが、地球表面積の7割を占める海洋と循環的につながる沿岸部・淡水域は人類の生存に不可欠なものです。この水資源や環境に関連した経済活動全般を「ブルーエコノミー」として、経済社会の持続的発展と生態系・水資源の保全等の環境的な持続性向上を両立させようとする機運が世界的に高まっています。この「ブルーエコノミー」分野は、「環境の世紀」「第4次産業革命」の時代に、今後より重要性を増していき、ビジネスチャンスも拡大することが予想されます。

愛媛県は多様な産業セクターが立地しており、多くの企業・事業者が活躍されています。日本最大の養殖生産地であり、造船業が盛んであり、海洋インフラ・機器に関する企業があり、水処理技術を持つ企業も多い、観光面でも瀬戸内海・宇和海などの環境が重要である…などなど、数え上げればきりが無いほど「ブルーエコノミー」に関係し、競争力もある産業セクター・プレイヤーがたくさんいらっしゃいます。さらに愛媛大学をはじめとした教育研究機関があり、愛媛県としてもデジタル技術の実装事業「トライアングルエヒメ」などで、ブルーエコノミーに関連したスタートアップ・新産業育成に取り組まれています。



藻場造成構造物



造成藻場

出所：DBJ

【ブルーエコノミーに含まれる産業・業種・技術】

既存の産業セクター	新興の産業セクター
<ul style="list-style-type: none"> • 水産関連：漁業・養殖業・水産加工業・水産流通業 • 船舶関連：造船業・船舶修理業・内外航輸送業・港湾管理業 • エネルギー：海洋石油・ガス採掘 • 建築：海洋土木・建設業・水力発電 • 観光：旅行・宿泊業 • 研究開発・サービス：研究教育機関・コンサルティング • 公共サービス：上下水道・産業用水 	<ul style="list-style-type: none"> • 水産関連：（産業的）養殖業 • エネルギー：洋上風力発電、海洋エネルギー発電・深海採掘・インフラ整備 • テクノロジー：バイオテクノロジー・テクノロジーを活用した製品・サービス開発・脱塩技術・水処理技術 • 環境：ブルーカーボン・海洋廃棄物対策・生物多様性保全など

出所：OECD・UN資料などによりDBJ加筆作成

また、従来の議論では触れられていないところですが、石鎚山系をはじめとした良質な水資源を活用した飲料や日本酒も、立派な「ブルーエコノミー」といってもよいでしょう。愛媛が誇る製紙産業も生産段階において水とは切っても切り離せませんし、海水淡水化などの水処理分野でも、機能性紙の開発が進められています。

弊行でも、実は「ブルーエコノミー」の取り組みが始まっています。昨年度、香川県において、国立学校法人香川大学と地元の漁業協同組合との連携事業「金融×科学で『海』を『資本』に〜ブルーカーボンによる瀬戸内海復権」プロジェクトを開始しました。瀬戸内海海域では、高度経済成長期における砂利採取や埋め立て等により藻場が消失し、生物多様性の毀損や漁獲量への影響が問題となっていますが、同大学が開発した藻場造成技術を活用し、ブルーカーボンとして事業化するなど、瀬戸内海の自然復興を加速させる新事業の創出を目指しています。

さらに当事務所では、昨年度から愛媛県内の養殖産業について調査を行っています。世界的に水産物需要が高まる中、愛媛県の養殖産業の成長性について検討していますので、ぜひ関心のある方は弊行ウェブサイトのレポートをご覧くださいければ幸いです。

このように愛媛県には、これからの世界や日本にとって重要であり、注目も高まることが予想される「ブルーエコノミー」について、地理的・自然的にも、文化的、産業的にも多くの蓄積があります。「ブルーエコノミー」分野に強みあり、と言ってもいいでしょう。これらをデジタル技術も活用しながら、ビジネスとして発展させ、地球の持続可能性に貢献し、世界の中で不可欠な存在になる。そのような21世紀中盤を迎えることができれば、人口100万人時代も引き続き住みよい、働き甲斐のある愛媛県であり続けることができるのではないのでしょうか。

やや大風呂敷を広げてしまいましたが、新年、そして新たな四半世紀の始まりに、長い目線で愛媛県のあり方を考えていただくきっかけになれば幸いです。

改めまして本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「地域子育てのハブから未来を育む」
～母・副園長・研究者－三つの視点が生む挑戦～
学校法人エンゼル学園 幼保連携型認定こども園
エンゼル幼稚園 勝見 慶子副園長に聞く



少子化や共働き世帯の増加で、子育て支援は「地域子育てのハブへ」。エンゼル学園は当行事業所内保育施設を運営し、働く世代と地域の持続性を支えます。博士号取得の専門性と現場経験を往復する勝見さんの言葉には、教育と経営を両立するヒントが満載。食育やICT教育などSDGsを意識した地域連携の取り組みにも注目です。

(聞き手：ひめぎん情報センター 副センター長 川久保公代)

【第1章】キャリアの歩み

川久保：これまでのキャリアや、印象に残っている転機を教えてください。

勝見：大学・大学院で教育学を学び、海外留学を経て博士号を取得しました。テーマは「子どもとデジタル社会の関わり」。当時はまだ注目されていなかった幼児期のメディア教育を軸に、「子どもがよりよく育つために大人はどう関わるべきか」を研究しました。

大きな転機は母になったことです。日々成長する子どもと向き合う中で「研究と実践は切り離せない」と実感しました。園という現場は、教育学の知見を社会に還元できる場であり、研究者としても刺激を受けています。

川久保：留学や博士号の取得など、学び続けようと思ったのはなぜですか？

勝 見：現場に出る中で、子どもや家庭環境の急速な変化に危機感を覚えました。「このままではいけない」と感じ、学び直しを決意しました。28歳頃から「何を目指せばいいのか」迷い、はじめは防災教育、環境教育、メディア教育、国際教育など、教育の分野が多様化する中で迷いが続きました。しばらく模索しながら苦しい時期が続きましたが、その経験が研究への道を開きました。

川久保：研究で得た視点は、現場でどう生きていますか？

勝 見：以前は問題が起きても冷静に対処するのが難しかったのですが、研究を通じて客観的に整理・分析できるようになりました。「本当に大事なことは何か」「原因はどこか」を見極め、園として大切にしたい軸を持って判断できます。分析力を身につけ、理論を背景に問題の本質を説明できるようになったことで、保護者や子ども、スタッフにも感覚や経験だけでなくきちんと伝えられるようになり、仕事がより楽しくなりました。



【第2章】子育て支援の現場での気づき

川久保：現場で特に印象に残っている出来事や、支援の中で感じたことを教えてください。

勝 見：子どもたちの成長はもちろんですが、保護者の方の表情がふっとやわらぐ瞬間に強く心を動かされます。あるお母さまから「園に来ると安心する」と言っていたことがあります。園は単に「子どもを預ける場所」ではなく、それ以上に「子どもが学び、保護者も安心できる、親子の育ちの場所」なのだと感じました。研究の中で「子育ての過程で誰もがふと感じてしまう心細さや迷い」、そして「情報の多さによる戸惑い」に触れてきましたが、現場で聞く言葉はそれをより具体的に教えてくれます。この研究と現場の行き来が、私にとって大きな学びとなっています。

川久保：ある意味、保護者の方に対して教育するような側面もあるのでしょうか。

勝 見：そうです。ただ「教育する」というより、保護者の方と同じ目線で伴走していく感覚に近いです。例えば、ならし保育の2週間は、子どもだけでなく保護者の方にとっても新しいリズムに慣れていくための助走期間になります。時には「バス通園を試してみませんか？」と提案することもあります。家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、柔軟な対応が求められるようになりました。

川久保：支援する側もそのような環境変化に対応するには研究と実践の往復が欠かせないということですね。

勝 見：その通りです。全国的な状況を見ると、少子化や核家族化、生活の多様化、デジタル化などにより、子育てに求められることがこれまで以上に広がっていること

がわかります。研究を通じてその背景を知っているからこそ、現場で新しい課題に出合っても落ち着いて対応できます。学び続けることで、自分自身の支援のあり方もしなやかになってきたと感じます。

【第3章】社会の変化と支援の役割

川久保：少子化や共働き世帯の増加で、子育て支援の役割はどう変わってきたと思いますか？

勝 見：以前は「子どもを安全に預かる場所」としての役割が大きかったですが、今は「地域子育てのハブ」へと変化しています。親子だけでなく、地域全体で子どもを支える仕組みが必要になっています。保護者・地域・園が一体となり、未来を担う子どもたちを育むことが、これからの子育て支援のかたちだと思います。さきほど申し上げたように、子育てに求められることがこれまで以上に広がっています。家庭だけでも、また幼稚園でもすべてを教えきことは難しい。だからこそ、地域のさまざまな人が一緒になって子どもを育てる仕組みが必要です。例えば、小学校では「コミュニティスクール」という制度が始まり、地域の人が先生となって授業を行う取り組みが全国的に広がっています。地域全体で子どもを育てるという考え方は、これからますます重要になると思います。

【第4章】壁や課題の経験

川久保：女性として、働く中で壁や課題はありましたか？また、それをどのように乗り越えましたか？具体的なエピソードもお願いします。

勝 見：博士課程の研究、園の運営、子育て。この三つを同時に抱えた時期は本当に壁の連続でした。「もう辞めたい」と思ったこともあります。それでも「子どもに誇れる姿を見せたい」という思いと、仲間や家族の支えが原動力でした。「博士号を楽しみにしている」「あなたは希望の存在」と言われた時は心に響きました。研究仲間がミルクを飲ませてくれたり、姉が弁当を作ってくれたり、職場の先生たちも「学んだことを教えてほしい」と勉強会を設けてくれるなど、家族のような環境に助けられました。困難を知見に変える姿勢が、次の挑戦につながると信じています。

【第5章】価値観・こだわり

川久保：働くうえで大切にしている考え方や軸は何ですか？

勝 見：常に「子どもの最善の利益」を軸にしています。研究者としてはエビデンスに基づいた実践を重視し、現場では子どもの声や表情を見逃さない感性を大切にしています。データと感性、その両方を往復することで、教育はより確かなものになると思っています。子どもの笑顔や保護者の何気ない言葉の中にこそ、教育の根

拠と価値があると思っています。

川久保：現場において、その考え方や軸はどう生きていますか？

勝 見：私は「良い」と思ったことを感覚だけで判断しないようにしています。なぜ良いのかを説明できることが大切で、その裏付けとしてデータを確認します。数字だけに偏るのも危険ですが、感性だけに頼るのもいけません。両方を大事にすることが重要です。例えば、自分は良いと思わなくても、他の人たちは良いと感じていたということが、数字から見えてくることもあります。私はもともと情緒的なタイプで、若い頃は感覚だけで動き失敗することもありました。今は理論と感性のバランスを取りながら判断しています。

【第6章】経営者としての視点・地域とのつながり

川久保：支援の質を保ちながら、事業としての持続性はどう両立されていますか？

勝 見：理想だけでは続きません。だからこそ、地域の企業や大学、行政との協働を重視しています。例えば、県外や地元の企業さん、農家さんと連携した食育活動はその一例です。園児には学びの場となり、地域には経済や文化の循環を生みます。教育と経営は相反するものではなく、互いに支え合う関係だと考えています。

川久保：食育活動で地元や県外の方と連携されているそうですが、どんな取り組みですか？

勝 見：地元の味噌メーカーと一緒に、子どもたちと味噌作りをしました。園の周りにははだか麦の畑が広がっていますが、「これが味噌になるんだよ」「パンにもなるんだよ」と言っても、子どもたちにはなかなかイメージが湧きません。そこで、実際に味噌作りを体験してもらいました。最近は味噌離れが進んでいるので、子どもたちに味噌に親しんでほしいという思いがあります。松前町ははだか麦の産地なので、地元の食文化を知る良い機会になりました。そして味噌汁を食べる子も増えたと聞いています。

また、去年は茶摘み体験もしました。茶畑を持つ方にご協力いただき、子どもたちが摘むことで食材への関心が高まったと感じています。

川久保：地域との関係づくりで意識していることがあれば教えてください。

勝 見：園は「地域の交差点」でありたいと思っています。保護者や地域の声から多くの取り組みが生まれました。たとえば、スマホの適切な使い方をテーマに、保護者、教育委員会、ICT教育専門機関と協力して講演や教材をつくったりもしました。地域が園を必要としてくれる限り、園も地域の力を活かしながら成長していきたい。その相互関係こそが、園を強くしていると思います。



【第7章】人材育成について

川久保：スタッフを育てるうえで大切にしていることを教えてください。

勝 見：スタッフには「自分の保育観を育ててほしい」と伝えています。正解を与えるのではなく、一緒に考え、悩み、学ぶ姿勢を大切にしています。その積み重ねが子どもの安心につながり、園全体の文化を豊かにします。安心して挑戦できる場があることで、保育者は輝き、その姿は子どもや保護者にも必ず伝わると思っています。

川久保：具体的にはどんな取り組みですか？

勝 見：以前は、私もそうでしたが、「決まったことをやる」ことに精一杯でしたが、今は多くのスタッフが自分で考えて動けるようになってきていると感じています。例えば、「この子にはこれが必要だと思ったので、こうしました」という報告を聞くと成長を感じます。そのために「まず自分で考えてみて」という習慣をつけています。さらに、自分の行動を言語化することも意識しています。「私はこういう気持ちでこうしている」「本当のルールはこうだけど、この子にはこう変える」と実況中継のように説明することで、考え方を共有しています。

【第8章】ワークライフバランス

川久保：仕事と家庭を両立するために、意識していることや工夫していることはありますか？

勝 見：私は「バランス」より「循環」という言葉を使います。家庭での経験が園に活き、園での実践が研究につながり、研究成果が地域に還元される。その循環があるから、どの役割も大切にできます。母親、副園長、研究者、どれもが欠かせない「私自身」です。

私にとっては「バランスを取る」というより、「やりたいことをやるために工夫する」という感覚です。私の家は園長先生も含めて、生活と仕事が完全に一体化しています。旅行に行っても「これ教材に使えるね」「これ50個買おう」となるのです。園長先生も同じで、いつも「保育にどう生かせるか」を考えていました。どこに行っても、「この仕掛けは保育に使えるね」「この衣装は参考になりそうだね」と考えていました。どこで良い出会いがあるかわからないから、常にアンテナを張っておくようにと教えられ、それが染みついています。例えば「どんぐり拾い」に出かけても、実は作品展の材料集めも兼ねている。そういう発想が自然になっています。

川久保：どこで何をしても、それが仕事にもつながるのですね。

勝 見：そうです。「仕事をしながら楽しむ」「楽しみながら仕事をする」と、ストレスがなくなると教えられました。当時は意味がわかりませんでした。今はよくわかります。今度、園長先生が孫と一緒にテーマパークに行きます。「仕入れに行こうかな」と言っていて、発表会の衣装や園内の装飾の参考にするそうです。クリ

スマスの飾りもそうやって学んでいます。もちろん孫との思い出も作ります。だから一石二鳥、三鳥、いや四鳥くらいの感覚です。

【第9章】若い世代へのメッセージ

川久保：社会で活躍する若い世代、特に女性たちにメッセージをお願いします。

勝 見：キャリアと家庭、研究と子育て—どちらかを選ばなくてはならないと思う必要はありません。むしろ両方を抱えることで見える景色があります。社会がまだ十分に柔らかくない中で挑戦するのは大変ですが、その一歩が次の世代への道を拓きます。自分一人で抱え込まず、仲間や地域とつながりながら、自分らしいキャリアを編んでいってほしいと願っています。

川久保：「どちらかを選ばないといけないわけではない」という言葉が印象的です。それぞれの立場で見える景色が違うということですね。

勝 見：本当にそう思います。とにかく、まず一歩を踏み出してみることに。そうしないと、この厳しい時代は乗り越えられません。

SNSを見ると、すごい人がたくさんいます。「3人の子どもの育てながら部長職、ワンオペで、いいマンションに住んでいて、習い事も完璧」なんて投稿を見ると、正直へこみます。「私、全然できてない」と思ってしまう。でも、そういう情報に振り回されないことが大事です。お母さんたちも「仕事に復帰しないといけないけど、前みたいにはできない」と悩んでいます。だからこそ、周りを巻き込みながら進むことが必要です。

川久保：本日は素敵なお話をありがとうございました。

勝 見：こちらこそ、ありがとうございました。



【プロフィール】

愛媛県松前町出身。

玉川大学文学部卒業後、ルイジアナ州立大学大学院、鳴門教育大学大学院、

兵庫教育大学大学院にて教育学を専攻し、博士号（学校教育学）を取得。

大学および研究機関で幼児教育・学習環境・ICT活用を中心とした教育研究に従事したのち、

令和5年より、学校法人エンゼル学園認定こども園エンゼル幼稚園 副園長として、

幼保連携型認定こども園エンゼル幼稚園の運営に携わる。

幼児教育の質向上、ICTを活用した保育改革、

地域と連携した食育・国際教育（ユネスコスクール）など、多領域で実践と研究を展開。

講演・研修・大学院での授業も担当し、「現場と研究をつなぐ」教育リーダーとして活動している。

趣味はピアノ、旅行、おいしいコーヒー探し。

シリーズ 四国霊場を歩く(11)

阿波路から土佐路へ

－山海の難所・番所を越え、女人禁制の寺へ－



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長
胡 光 (えべす ひかる)

阿波路を歩く

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、江戸時代の弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに四国を北上、55日で一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、阿波路に入って11日目をむかえました。新野村（阿南市）の百姓家を出発し、同村内にある二十二番札所平等寺へ向かいます。

弘法大師の奇跡

4月15日、平等寺には、大師堂・地藏堂・十王堂などがあり、一段高くに薬師如来を祀る本堂がありました。現在、本堂には大正12年（1923）高知県の筒井林之助が奉納した箱車が保管されています。箱車とは、いざり車とも呼び、足が不自由な方を乗せて運ぶ台車です。父が車を引き、ここまでたどり着いた親子は、弘法大師が湧かせたという霊水を飲みながら滞留したところ、足が立ち、箱車を



箱車がある二十二番平等寺

奉納したというのです。

箱車の奉納は、多くの四国霊場に見られましたが、現在ほかに、四十四番大宝寺（愛媛県久万高原町）・五十七番栄福寺（同県今治市）・八十八番大窪寺（香川県さぬき市）に残るのみとなっています。しかし、四国霊場や写し霊場以外の寺院でこのような事例は報告されておらず、弘法大師の奇跡を伝える四国遍路の特徴となっています。

先へ進むと月夜村に大師の加持水がありました。大師が闇夜を照らすために月を呼び寄せ、民のために清水を湧かせたものです。現在も月夜御水庵があり、奇跡を伝えています。

次の二十三番札所薬王寺（美波町）もその名のとおり、大師が彫ったという薬師如来を本尊として、厄除け・無病息災を祈る寺として有名です。同寺にも「瑠璃の水」が湧き大師像が祀られており、この地域の霊水伝説の一翼を担っています。

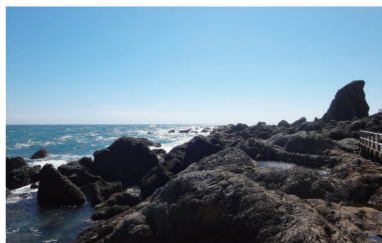
阿波最後の札所で無病息災を祈ったはずですが、佐治氏は癰（しゃく・内臓の痛み）に悩まされ、日和佐町（美波町）と牟岐町（牟岐町）で宿をとり休みます。

国境を越える

4月18日、ようやく出発して、国境へ向かいます。穴喰浦（徳島県海陽町）の阿波番所では、日付を書いた切手を納め、山を越えた甲浦（高知県東洋町）の土佐番所では、往来手形を見せて、切手もらい、甲浦の商人宅に泊まることができました。讃岐・阿波国境では詳細な記述

はないので、阿波・土佐国境の詮議が厳密だったと思われます。翌日通った野根村にも番所があり、改めを受けています。

阿波から土佐への道は、八坂八浜と呼ばれ、山海の難所が次々に登場します。



御厨人窟前の奇岩と太平洋

土佐の海岸線には、現在のような道はなく、三里（約12km）もの間、飛石・はね石・ごろごろ石という荒磯の難所を通りました。疲れて休み、狂歌を石に落書きしています。崎浜の百姓伝七宅に宿を借りました。

阿波から土佐にかけての道沿いには、たくさんの茶屋が記録されていて、休憩や昼食には困らなかったようです。茶屋で出た食事は、梅干し・煮しめ・豆腐・筍・切干大根・木耳・吸物・味噌汁などでした。昼食のことを「御わけ」と呼んでいます。

女人禁制の寺

4月20日は大雨のなか、室戸の東寺を目指します。途中、洞窟や権現を通りますが、弘法大師が悟りを開いた御厨人窟（みくろど）という認識はないようです。

室戸岬の東西に、二十四番札所東寺（最御崎寺）と二十六番西寺（金剛頂寺）があり、両寺の聖域は江戸時代、女人禁制でした。女性は山に登れないため、前札所で分かります。両寺の間に、二十五番津照寺があります（いずれも室戸市）。一行は、二日にわたってこの三か寺を参



室戸岬に建つ二十四番最御崎寺

詣し、東・西寺に参る際には、男女に分かれています。

西寺に行く途中、「女札所は左、本道は右也」と書いた道標が記録されています。真念のガイドブックにも紹介された貞享2年（1685）銘の入った立派な道標は、西寺の女人結界を記し、遍路道標としても最古のものです。

東寺（最御崎寺）には、弘法大師と母玉依御前の伝説も残っています。修行中の大師を母が訪ねてきたところ、火の岩が降ってきたため、大師が岩をねじ伏せたという洞窟があります。男性の修行場から女性を排除する修験道の思想が大師の奇跡として伝わっているのです。

四国霊場における女人禁制文化の継承は、元は札所とされる石鎚山を除けば、室戸の事例だけです。六十五番札所三角寺（四国中央市）は血の穢れを浄化する「血盆経」を配り、その奥之院仙龍寺は女人高野として信仰を集めていました。真念のガイドブックを読んでも霊場全体では女性を受け入れており、日記や絵画などの史料からは多数の女性遍路の姿がうかがえます。

かつての女性へのまなごしを伝える道標は、歴史の証人として、今でも遍路を見守っています。



二十六番金剛頂寺の結界を示す最古の遍路道標

【参考文献】

伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981
塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路と世界の巡礼（上・下）最新研究にふれる八十八話』創風社出版、2022・2025

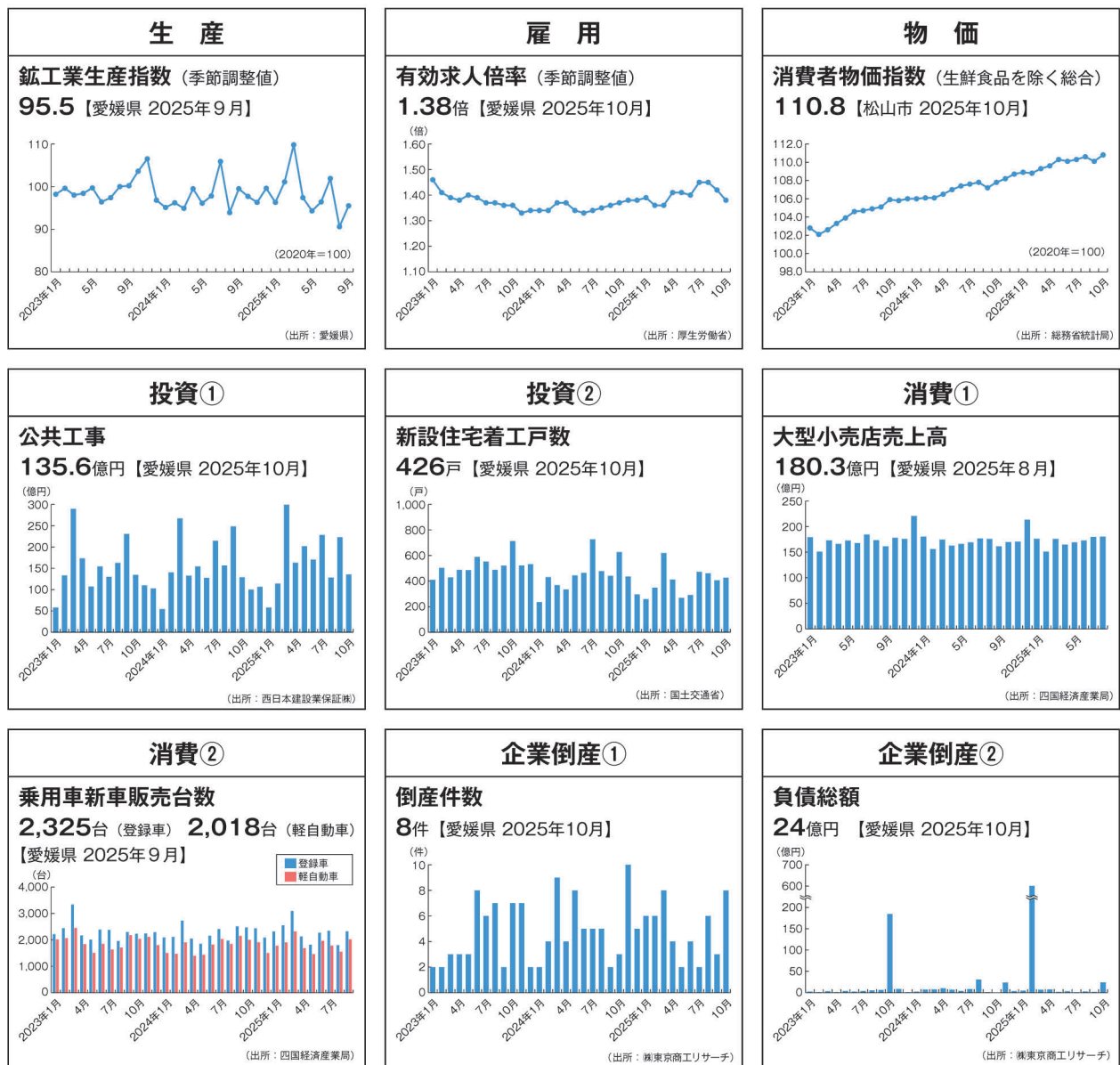
経済指標から振り返る 2025年愛媛県経済

経済概況

「一部で弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。」

出所：愛媛県「最近の県内経済情勢（令和7年10月分）」

主要経済指標 (2025年12月11日時点)



ひめぎん情報 2026新春号 No.306

発行／株式会社 愛媛銀行 ひめぎん情報センター

〒790-8580 松山市勝山町2丁目1番地

TEL (089) 933-1431



ひめぎん

ひめぎんアプリ

普通預金・投資信託・NISAの口座開設から
投資信託売買まで、
アプリで完結するサービスが増えて
ますます便利になりました!!



ひめぎんアプリ
ダウンロードはこちら

ひめぎんアプリ

キャンペーン定期預金

キャンペーン期間：2025年12月15日(月)～2026年3月31日(火)

適用
金利

年 **1.0** % (税引前)

※自動継続後はひめぎんアプリスーパー定期預金となり、スーパー定期の店頭表示利率を適用します。
分離課税(国税15.315%および地方税5%、合計20.315%)となります。
※平成25年1月1日以降は、復興特別所得税が追加課税されています。

＜お預入れ期間＞ **3か月**

※自動継続(元金継続または元利金継続)のみのお取扱いとなります。
※満期・解約後の再預入はできません。

＜お預入れ金額＞ **1万円以上50万円以下(1円単位)**

※口数に制限はありませんが、お一人様総額50万円が上限となります。

キャンペーンについて
詳しくはこちら



15歳～25歳若者限定!
口座開設で、1,000円プレゼント!※1

ひめぎんU25口座+

50歳以上限定! ご入会で愛媛の特産品
カタログギフトプレゼント※2

Prime 50

銀行を、もっと近くに

HandyBank

全国28,000台以上で
口座開設や住所変更も!

セブン銀行ATM



※1 口座開設完了の翌月末頃にHandyBank支店普通預金口座へ入金します。次の場合はキャンペーン対象外となります。
・特典入金時点で指定の預金口座を解約されている場合や、当行預金口座に入金制限がある場合

※2 毎年3月末・9月末の継続利用時に条件を満たしていた方に、4月・10月の下旬頃にお送りいたします。次の場合はプレゼント対象外となります。

① メールアドレスのご登録がない場合 ② プレゼント時点でご登録いただいたメールアドレスの変更やメール設定等により当行からのメールを受信できない場合

水樹奈々

愛媛銀行

詳しくはこちら▶



22_Ehime

BY FRIENDSHIP EHIME

愛媛を贈るカタログギフト

ゆたかな風土を継ったモノ、
何十年、何百年も前から受け継がれてきたモノ、
つくり手の想いが感じられるモノ、
地球環境やいのちに向き合ったモノー

22_Ehime では、えひめを愛する推薦人がおすすめする
次の世代に伝えたい一品をお届けしています。



FRIENDSHIP ☆
EHIME フレンドシップえひめ
Dynamic local value creation

詳しくはこちら▶



(2025年12月20日現在)